

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 28  
2019・3・27

1 連邦食料・農業大臣：農業後継者との対話－EU-プロジェクトデー

(2019・3・25)

連邦大臣と農業職業学校生が、ヨーロッパをテーマに交流

クレックナー大臣は、連邦政府の EU ープロジェクトを通じて、ドイツで最も大きな農業職業学校の生徒と交流した。ベルリンのツェーンドルフにあるペーターエルネ学校において、大臣が農業に関連した職業で働きたいという、90人以上の若者たちと話し合った。

この議論でのテーマは、次のヨーロッパ選挙、ヨーロッパにおける現在の発展、共通農業政策（GAP）そしてその改革、肥料規則と家畜保護であった。

共通農業政策は、日常的に殆どの農業関連職業に影響をもたらしている。これについてクレックナーは述べた：GAP は決して十分でない。今日、これを考えねばならない。政策と社会は決して完成していない。そして GAP は、都市と農村が共に発展する役割を果たす。

### ヨーロッパの贈り物

クレックナーは、EU の高い価値評価をアピールした。”我々はヨーロッパの贈り物を有している。それは時として実態に適応し、そして時にそうでない。

しかし、断念してはならない。デモクラシーもまた贈り物である。そして同時に人々は闘っている。1人でなく多くの人とともに。ヨーロッパにおける運動は、学生たちの問題解決も目指している。”クレックナーは語った：急進主義は常に目立つだけである。ヨーロッパは”価値規準”に基づいて、平和的に共に生きる。

### EU-域内 より多くの家畜保護

家畜保護とグリホサート（訳注・アミノ酸系の除草剤）は、2つの共通議論の継続テーマであった。クレックナーは、自らの目標で EU 一域内での家畜の保護水準を高めることである。

”我々は、このために全 EU において審議を促す。ヨーロッパ全域で家畜保護に際して、考え方の一新を達成するために。”連邦農業大臣が、議論されている除草剤の作用物質との関係で説明した：”我々はグリホサートを、代替えしなければならない。そのため、代替えを必要とし再び研究を進める。”

ベルリンの生徒たちは、今重要になっているヨーロッパ全域のプロファントシステム（訳注・環境保護のためペットボトルを店に返すデポジット制度）について、約1時間のイベントで発表した。そして生徒たちは大豆、パーム油の補助金について批判的に尋ね、科学的な研究結果の公表に対して、連邦局の評価方法について見解を求め、食料の投げ捨てについて意見を述べた。

### **緑の職業に焦点を**

ベルリンにある自然－環境オーバーシュトーフエンセンター（訳注・ベルリンにある職業学校の形態）には、1500人以上の生徒が園芸、墓地園丁、動物の世話または農業技術について学び、そしてそれぞれの職業に必要な資格を取得する。この学校は、ビオへの取り組み、持続性を目的に設定している。連邦首相アンゲラメルケルは、EUープロジェクトデーを主宰している。若い人々にEUへの関心と呼び覚まし、そのための情報を提供している。2007年以来、政治家が連邦全体の学校を訪問し、そしてヨーロッパテーマについて青少年と議論している。

## 2 連邦農業大臣：気象災害による森林被害は不安を誘う（2019・3・21）

連邦農業大臣は、ブランデンブルグ/ノイエンにおける”国際森林デー”の際に、暴風、干ばつそしてキクイムシによる森林被害の状況を詳しく現地調査を行った。ドイツの森林は、昨年の極端な気象現象並びにキクイムシによって、大きな被害を受けた。政務次官ミヒャエルシュトープゲン、森林所有者代表ハンスゲオルグ、ドイツ林業協議会ゲオルグシルムベックそして連邦議会食料・農業委員会委員長アローイスゲーリックが同行した。

”冬の暴風被害、夏の長期間にわたる干ばつ、さらに加えてキクイムシの被害は、我々の森林に大災害を及ぼし、多くの国民に不安をもたらしている。2018年に3000万m<sup>3</sup>以上の被害木が発生した。これは過去30年のドイツ林業において、4番目に重い被害発生である”と、大臣が述べた。継続しそして損害が重大なキクイムシの発生は、さらなる森林地の枯死をもたらす。発生した被害の正確な規模は、部分的にここ数年間内に見極める。

” 私は迅速に対応し、森林被害のために EU ー共通農業政策（GAK）を通じて、2 500 万ユーロ（約 32 億 5 000 万円）を準備した。森林所有者のために、税制上の軽減も実施する。第一次的に所管する各州は、加えて GAK から支出される財源を組み換えせずに、そして森林のために用いることを任されている。これは正しく重要である。なぜならば、我々の森林は一連の重要な課題を、実現するからである。

それは気象の保護者、木材の供給者、生物多様性の維持、市民の保養地である。それ故に、我々は支援しそして私は各州と共同でさらに尽力する。つまり、被害地の整地と再植林について、十分な支援を準備する。同時に我々は統一した、そして継続したモニタリングシステムについて作業する。樹木の将来的な大量枯死について、早急にそして目標に向けて正確に適応することができるために。” 連邦農業省は、被害を受けた森林所有者のために、各州と共同で目的に応じたさらなる支援政策を、すでに講じている” と、クレックナーは述べた。

- ・被害地の存続一土壌に優しい整地対策
- ・様々な森林保護対策（監視、予防、有害生物の防除、被害木のための木材置き場の施設、森林火災の予防と防火対策など）
- ・再植林対策、極端な気象結果によって被害を受けた植林の再修復並びに基礎一土台の構築

## 背 景：

国際森林デーは、2019 年に” 森林と教育” のモットーのもとに開催された。全ての国民のために森林において明らかな現在の出来事に直面して、森林関連の多くの教育活動が、実施されている。ドイツにおける 2 000 の森林幼稚園並びに森林学校と多数の森林情報センターが、特別な意義を有する。

### 3 フォイヒテ政務次官：農業輸出はドイツ農業の将来のための重要な柱 (2019・3・21)

食料と農産物のドイツ輸出協会（GEFA e.V）の第 7 回外交官ーサロン

ドイツ連邦食料・農業省政務次官ハンス ヨアヒム フォイヒテは、ベルリンの GEFA の第 7 回外交官ーサロンを、2019 年 3 月 20 日に訪れた。政務次官は、この際のスピーチで強調した：” 農業輸出は、ドイツ農業経済の将来のために、そして我々の国における農村地域の生存能力のために、重要な柱である。減退する需要に際して農業と食料業界は、経済力を維持するために輸出への依存が高まっている。この間、ドイツは NO 3 の農業輸出国になっている。

しかし、決して一方通行の貿易ではない”と、政務次官は強調した。依然としてドイツは農産物の純輸入国である。政務次官は最後に述べた。”特に小一中規模な農業経営を維持し、そして購買力のある市場を支援するために、我が省は広範な奨励政策を実施する。特に市場調査と貿易の開始、目的とする市場の多様な情報、並びに幅広い外国見本市プログラムである。”彼はその際、発展途上国について輸出奨励の目的にしないことを強調した。

## 背景：

外交官－サロンは、ドイツの農業の立場について、外国の農業外交官の情報が役立つ。加えて農業貿易に関する公開対話を取り入れ、そしてさらにそれを奨励する。GEFA は、政策と食料経済上の産物の輸出問題との間の広範なコミュニケーション基盤を形成する。この団体は全ての経済関係者のために、中心的なインフォメーションセンターとしても理解されている。つまり、ドイツからの種子、育種用家畜、農業技術のような先行投資の分野からの食料、飲料、農業原料品または産物の情報を提供する。

### 4 レストランにおける子供料理は健康規準に適応すべき

レストランの子供メニュー研究 (2019・3・20)

連邦大臣は、栄養学者並びに料理人と会合し、研究成果からの推奨事項の改定と新しいコンクールについて申し合わせした。2月初めにハイデルベルグ大学の研究結果、「レストランにおける子供のメニュー」を議論した。子供メニューに提供されている料理の約70%が、栄養学者の視点からすれば、不健康である。

連邦食料・農業大臣クレックナーは、この観点で研究関係者、ドイツホテル－レストラン連盟 (DEHOGA) ドイツ栄養協会 (DGZe.V) 並びに子供の栄養研究所を、会合に招いた。連邦食料・農業省で開催されこの対談について、クレックナーが述べた：家族とのレストラン訪問は、日常的なものでない。それにも拘わらず我々は、太りすぎの子供たちと青少年の増加している視点でもって、この研究結果を重大に受け止めねばならない。

我々の全ての目的は、バランスある子供の栄養である。レストランにおける健全な子供料理の提供に向けて改善するために、多くの「歯車」から1つを選んで、方向を転換させたい。我々が取り決めしたところの具体的な対策に対して、「花」を咲かせたい。以下の点で科学者と経済界が合意した政策である。

- 1 我々は栄養科学者とともにすべてのレストランについて子供への料理に係る明確な指針の作成
- 2 レストランにおける模範的なメニュー評価のため各団体との共同コンクールの開催
- 3 灯台としての模範的なメニューへの応募のための構想を描くこと
- 4 模範的な子供メニュー発展に際してこの分野における行動心理学研究も取り入れること
- 5 この円卓会議でさらなる会合で検討を続けること

2019・3・25 訳  
青森中央学院大学  
中川 一徹